

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 033	提案機関名 農業技術センター 三浦半島地区事務所
要望問題名 7月収穫カボチャ一本整枝栽培技術の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 三浦半島でのカボチャ出荷は、5月下旬から7月を中心に行われているが、7月以降は、小玉傾向が顕著となり品質的に低下したのも見られることから販売単価が伸び悩んでいる。こうした状況を踏まえ、近年、春キャベツ収穫後の4月中旬に定植し、7月収穫の一本整枝栽培を行い、大玉で高品質なカボチャの生産が行われている。 この栽培においては、特に定植時における保温について、現地では、トンネル被覆、寒冷紗被覆など、多様な資材が利用されており、栽培技術が確立されていない。このようなことから、定植時の保温資材や保温方法、また、各被覆資材下の気温及び地温についての検証が必要となっている。 カボチャ作付面積 三浦市122ha、横須賀市70ha(平成18～19年神奈川農林水産統計年報)	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術所 <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター 三浦半島地区事務所	担当部署 研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 主要夏作の栽培体系の開発と流通販売に関する調査	
対応の内容等 4月中に定植するカボチャの被覆資材としては、通常のビニールトンネルを使用すれば問題ないが、近年、資材費を節減するため、寒冷紗被覆のみのほ場も見受けられます。しかし、この時期の気象は変動が大きく、半島内の地区による気象条件も異なりますし、カボチャ苗の活着状況や苗質により耐寒性が異なります。従って、省力・経費節減であっても、低温害の危険が懸念される資材を一律に普及することは適切といえません。 当所としては、カボチャ定植時のトンネル内の温度測定等により、ビニール、寒冷紗等資材による温度の傾向を調査します。当所におけるデータとして提供することにより、資材選択の参考としていただくことは可能と思われます。	
解決予定年限	① <input type="checkbox"/> 年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	